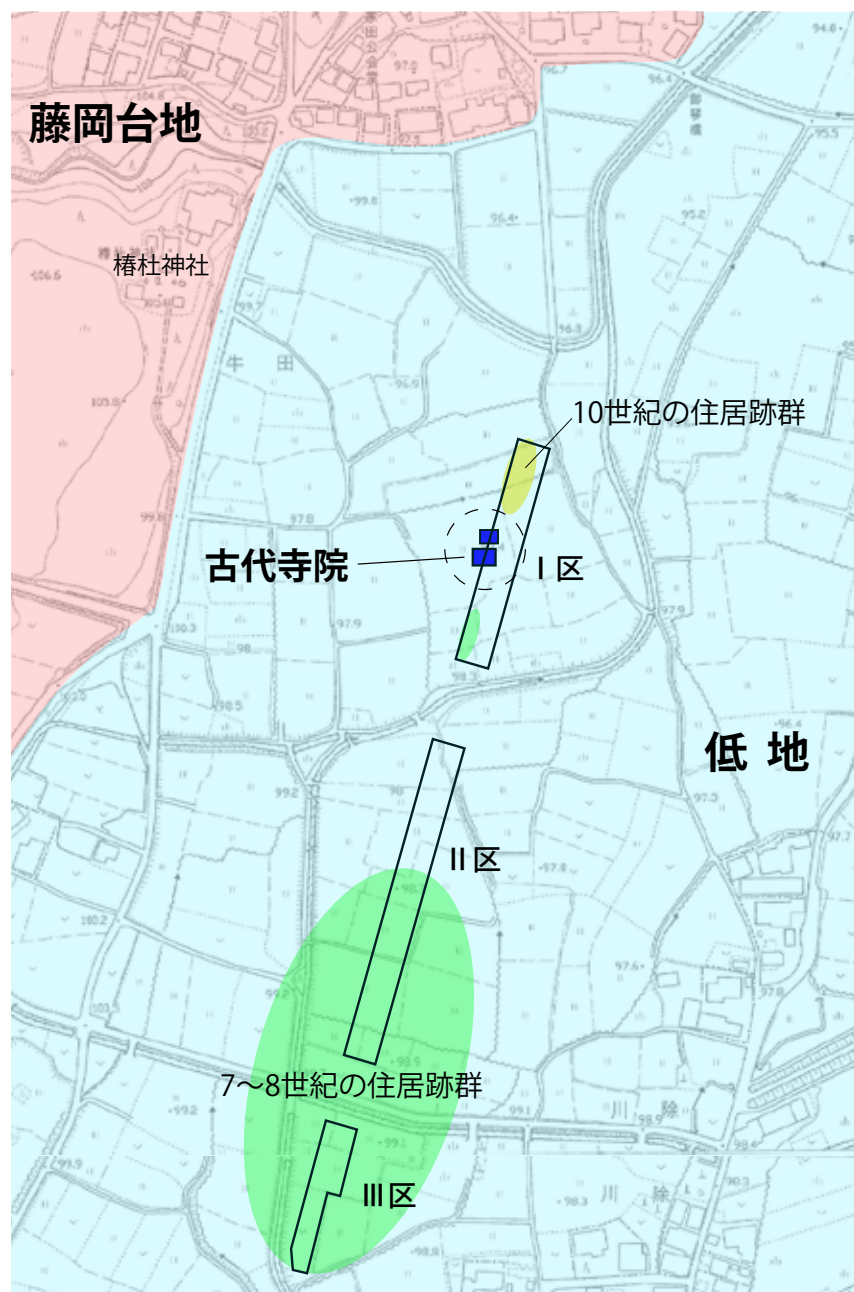


3. 川除屋敷裏遺跡の古代寺院と集落の構成

川除屋敷裏遺跡 B 地点では、古代寺院の他に当時の人々が住んでいた沢山の住居跡が見つかっています。

これらの住居跡の時期を見ていくと、寺院が作られた 8 世紀やそれより前の 7 世紀代の住居は遺跡の南側のⅡ・Ⅲ区に集中しており、寺院の周りにはあまり見つかりません。寺院が^{はいぜつ}廃絶された 10 世紀になると寺院近くに住居が作られるようになり、住居のまとまりから時代ごとの集落の動きを知ることができます。

寺院が作られた8世紀には、寺院周辺にあまり住居跡は作られておらず、集落と寺院が離れていました。これは寺院周辺が特別な空間であったことを示していると言えるでしょう。寺院が廃絶されていた10世紀代には、逆に寺院の近くに住居を作っており、特別な空間ではなくなっていた可能性があります。



川除屋敷裏遺跡 B 地点の調査区と遺跡の構成

遺跡現地説明会資料

かわよけやしきうらいせき

川除屋敷裏遺跡 B地点

—藤岡市で初めて発見された古代寺院跡—



平成30年11月11日(日)

主催：藤岡市教育委員会

1. 川除屋敷裏遺跡 B 地点の位置と周辺の遺跡群

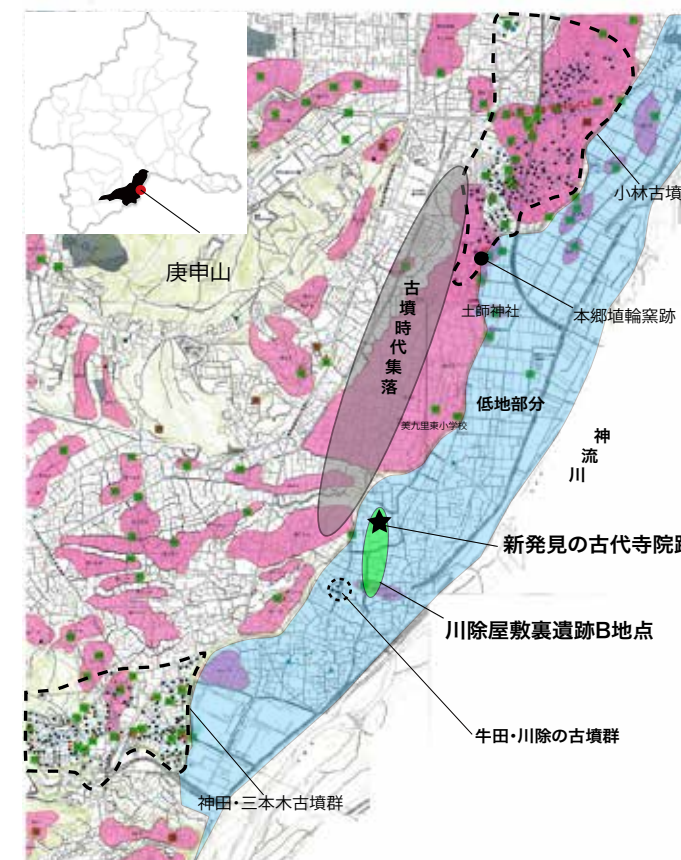
うしたかわよけ
牛田川除地区土地改良事業に伴って調査中の川除屋敷裏遺跡 B
地点は、群馬県と埼玉県の間を流れる神流川^{かながわ}左岸の低地に位置
しています。この付近は近年まで遺跡は無いと考えられていた地
域でしたが、7～10 世紀にかけての集落と藤岡市では初めての発
見になる古代寺院が存在することが明らかとなりました。

近隣の藤岡台地上には、数多くの古墳があり、古墳時代の大集落が展開していますが、7世紀になると活動の場所を低地に移していくことが、現在行なっている発掘調査でわかってきています。

古代寺院は低地の中でも、台地寄りのやや奥まった箇所につくられていました。



古代寺院の空中写真（東から撮影）



遺跡の位置と周辺に広がる遺跡

2. 発見された古代寺院

川除屋敷裏遺跡 B 地点北側で、藤岡市で初となる古代寺院が発見されました。瓦の年代から 8 世紀前半に創建され、100 年程度の期間使われていたようです。2 基の建物跡は文献にも記されていない新発見の寺院跡です。

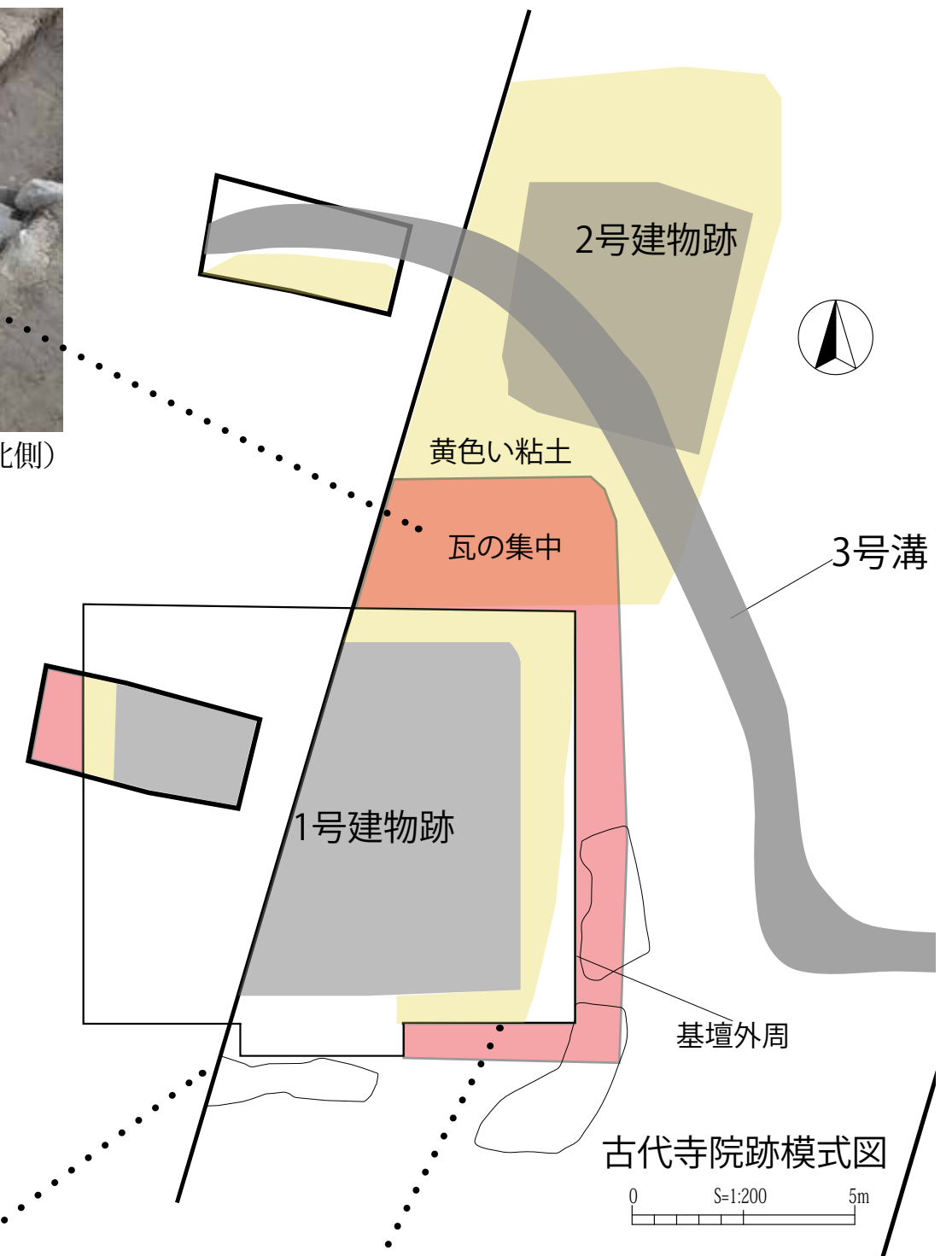
1 号建物跡は、土台である^{きだん}基壇を持ち、基壇外周を大形の自然石で区画し、南側に入り口を設けています。基壇外周の大きさは 9 × 11m で東西にやや長い長方形です。基壇の周りからは屋根から落ちた大量の瓦が片付けられずにそのまま残っており、1 号建物跡が瓦屋根であったことがわかりました。重い瓦屋根を支えるために 1 号建物跡には、「掘込地業」と^{ほりこみちぎょう}いって建物箇所の土を入れ替え、種類の違う土を交互に入れ硬く叩き締める地盤改良^{はんちく}（版築）を行っていました。ただ建物が立っていた場所には、明確な柱の痕跡は見つかっていません。

この建物は、平面形状から^{ほんぞん}本尊を安置していた^{こんどう}金堂であった可能性が高いです。

2 号建物跡には掘込地業はなく、礫と瓦が混じった土層と黄色い粘土層が広がっており、^{せいち}整地の跡であると思われます。1 号建物跡とは異なる基礎の作り方しています。建物範囲は不明で明確な柱穴なども見つかっていません。また瓦がまとまって見つからないことから、瓦屋根の建物ではなかったのでしょう。浅間山から噴出した火山灰である As-B 軽石（1108 年）が上層に堆積している 3 号溝が、2 号建物跡を壊して作られており、軽石が降った 1108 年以前には寺院はすでに機能していなかったと考えられます。



屋根からそのまま落ちた状態の瓦（北側）



寺院を区画する石列

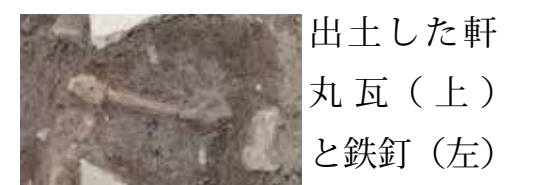
土が掘り込まれ周囲とは違う土が入られていました。

掘込地業の痕跡（南端壁際）



寺院を区画する石列及び瓦列

屋根から落ちた大量の瓦



出土した軒丸瓦（上）と鉄釘（左）